

施策評価調書 目標年度(27年度)実績

施策コード Ⅲ-4-(1)

政策体系	施策名	広域交通網の整備推進	所管部局名	土木建築部、企画振興部	長期総合計画(プラン2005)頁	135
	政策名	交通ネットワークの充実と地域交通対策の推進	関係部局名	土木建築部、企画振興部		

【Ⅰ. 主な取り組み】

取組No.	①	②	③	④
取組項目	広域交通網の形成	鉄道の利便性・快適性の向上	大分空港の利便性の向上	本州・四国と本県を結ぶフェリー航路の利用促進

【Ⅱ. 目標指標】

指 標		関連する取組No.	基準値		27年度			目標達成度(%)											
			年度	基準値	目標値	実績	達成度	25	50	75	100	125							
i	大分市中心部まで概ね60分で到達できる地域(面積)の割合(%)	①	H16	57	70	69	98.6%												
ii	高速道路ICに概ね30分で到達できる地域(面積)の割合(%)	①	H16	58	84	83	98.8%												
iii	大分空港の利用者数(万人/年)	③	H16	187	150	185	123.3%												
iv	フェリー航路の利用台数(万台/年)	④	H16	102.2	85	78.0	91.8%												

【Ⅲ. 指標による評価】

評価	理 由 等			平均評価	
i	概ね達成	東九州自動車道等の広域交通網の整備促進が図られたため、目標値を概ね達成した。			達成
ii	概ね達成	東九州自動車道等の広域交通網の整備促進により、高速道路ICへのアクセス向上が図られ、目標値を概ね達成した。			
iii	達成	国内線の利用者数は大分ー羽田線の機材の大型化等により、国際線の利用者数はティーウェイ航空ソウル線が年間を通して週4往復で運航したことにより、目標値を達成した。			
iv	概ね達成	欠航便が少なかったことや、事業者間との連携によるフェリー航路の利用促進策を積極的に実施したことから、目標値を概ね達成した。			

【IV. 指標以外の観点からの評価】

取組 No.	指標以外の観点からの評価
①	・東九州自動車道の佐伯～蒲江間の開通により、佐伯市蒲江地域から第二次救急医療施設への搬送時間が約7分短縮となり、30分以内の搬送も可能になった。また、搬送時の走行性が向上し、患者の負担が軽減された。
②	・JR九州に要望活動を行ったことで、H28年3月のダイヤ改正において、6時18分大分駅発佐伯行きが2両から4両へ増結され、混雑を緩和できた。
③	・大分空港へのアクセスバスであるエアライナーの定時性を向上させるため、高速道路経由ノンストップ便の運行ルートを見直し、4～5分の時間短縮を図ることで、空港アクセスの利便性が向上した。
④	・フェリー航路利用促進事業費補助金を活用し、就航先地域での「おんせん県おおいた」のPR活動等を行ったことにより、H26年度に比べて旅客数が増加した。

【V. 施策を構成する主要事業】

取組 No.	事業名(27年度事業)	事業コスト(千円)	事務事業評価
			総合評価
①	(公)道路改良事業・(公)地域活力基盤道路改良事業	16,055,649	—
	港湾整備事業	1,818,654	—
	街路事業	5,004,649	—
③	国際航空路線開設・定着化促進事業	65,124	B
	国内航空路線拡充・定着化促進事業	30,656	B
④	フェリー航路利用促進事業	33,999	A

【VI. 施策に対する意見・提言】

<p>○土木建築委員会への市町村長要望 (H27.6)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・東九州自動車道の「福岡築上町～中津市～宇佐市」間の早期完成と全線完成に向け配慮をお願いしたい。 ・地域高規格道路「中津日田道路」の「日田山国道路」の早期着工、「耶馬溪道路」・「三光本耶馬溪道路」の早期完成及び、耶馬溪町から山国町間の計画路線の早期事業化をお願いしたい。 ・地域高規格道路「中九州横断道路」の「朝地～竹田間」の早期開通と「竹田～阿蘇間」の早期事業化に配慮をお願いしたい。 	<p>○大分経済界等による中九州横断道路・中津日田道路の要望(H27.11)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本県の横軸を担う地域高規格道路(中九州横断道路・中津日田道路)は、九州の一体的な発展を図るために必要不可欠な道路であることから、物流を円滑にし、産業・経済活動を活性化させるために、早期整備について配慮をお願いしたい。
---	--

【VII. 総合評価と今後の施策展開について】

総合評価	成果と今後の施策展開
A	<ul style="list-style-type: none"> ・東九州自動車道の県内全線開通をはじめ、中九州横断道路の犬飼～朝地間、中津日田道路の本耶馬溪IC～耶馬溪山移IC及び中津港～東九州自動車道間の開通により地域の産業や広域交流の活性化が加速した。引き続き、広域交通網の形成に向け、中九州横断道路の朝地～竹田間及び中津日田道路(三光本耶馬溪道路、耶馬溪道路、日田山国道路)の整備促進を図る。 ・国内線については、航空会社等と連携した県内への誘客に取り組み、また、国際線については、新規路線の開設や増便等により利用促進が図られ、H27年度の大分空港の利用者は8年ぶりに180万人台に回復した。 ・フェリー事業者が行う本県への誘客につながる取組みに対する支援を積極的に行うことで利用促進が図られ、フェリー航路の利用台数は目標値を概ね達成した。